

令和7年度 学校評価書(共通)後期

校名 宇和島市立吉田小学校

1 自己評価書

教育目標	地域を愛し、はつらつと生きる児童の育成					
基本方針	町内5校の統合により誕生した新しい吉田小学校として、愛媛県教育委員会並びに宇和島市教育委員会の基本方針に基づき、学校教育目標「地域を愛し、はつらつと生きる児童の育成」に努める。各校の伝統を受け継ぎ、学校・家庭・地域が連携した「防災教育」や「ふるさと学習」などの体験学習を重視し、「学びと実践」を繰り返すことにより、地域を愛する児童の育成を目指す。					
本年度重点目標	「豊かな心の醸成」「確かな学力の定着と向上」「たくましい実践力の育成」					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	D	D
			・具体的な対策の実施	D		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を考える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	A
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・保護者アンケート	C	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	C	C
				・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート				C		
(成果と課題)						
①テストや全国学力に対する分析が十分にできなかった。						
②国語科、算数科では、ねらいを明確にして授業を行った。また、家庭学習でも、保護者に呼び掛けることで、基礎基本が定着する児童が増えたように思う。						
③主体的・対話的で深い学びの一体的な充実に向けて指導案を改善した。それを基に各学級で授業研を行い研修を深めることができた。						
(改善策等)						
①標準学力調査を含めた分析を行い、通信等で保護者へ周知、徹底を行う。						
○成果が感じられないものや改善が必要なものの洗い出しや精選を行い、自校の特色を生かした学習を進めていく。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	C	A
			・保護者アンケート	C		
			・児童生徒アンケート	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	C	A
			・保護者アンケート	C		
			・児童生徒アンケート	A		
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	C	A
			・児童生徒アンケート	A		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	A		
	(成果と課題)					
①集団として、規律ある行動ができるようになってきた。気になることは、その都度対応することができた。不登校、または学校に来ない児童が少しでも学校に来て、共に学ぶことができればと思う。						
②不登校児童・保護者への働き掛けは工夫しながら行っているが、家庭環境も大きく影響し難しいことが多い。						
③取り組んでいるが、児童の意識の変化は感じにくい。						
(改善策等)						
①規範意識が育っていない児童に対しては、保護者と懇談し、基本的に守らせたいことを粘り強く呼び掛けていくなど家庭との連携を密にする。						
○特別活動や道徳科等で社会の礼儀や道徳的価値について学習するなど教育活動全体で取り組む。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	C	C
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C
	(成果と課題)					
①時間外勤務時間80時間を超える教員が数名いる。 ②校務分掌によっては、一部の教職員への負担が大きくなった。 ②人員不足の中であったが、工夫しながら環境を整えることで、業務を進めることができた。 ③スクールサポートスタッフの活用により、事務的な業務の負担軽減になった。 ③通学補助員の配置により、スクールバス等、下校の見守り業務の負担軽減につながった。						
(改善策等)						
①行事の精選やパターン化を進めることで、企画・運営段階での負担を軽減する。 ①教育課程や校時表の見直し・改善を行い、児童と向き合う時間や事務処理業務の時間を確保したい。 ②教科時数や学習内容の達成状況を基に児童の下校時間を早めるなど、教育課程を工夫する。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	C
				・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート		
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート		
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	C
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート		
	(成果と課題)					
①防災教育や部活動地域移行等について熟議することで、地域の現状や課題を見出すことができた。また、熟議内容を学校だよりに掲載し、周知を図った。 ②適宜ホームページを更新したり、通信等で活動の様子を発信してるが、まだ十分でないと考えている意見もあった。						
(改善策等)						
①教員に学校運営協議会の年間予定を周知し、年に1回は出席していただけるように参加を依頼する。 ②学校だよりの内容充実やホームページの更新を業務負担にならない可能な範囲で進めていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満